

2011年8月10日

民主党本部

組織委員長 横光克彦 様

群馬県議会議員

大沢幸一

離 党 届

私は、民主党群馬県総支部連合会の結成当時（1996年8月）から、民主党員及び地方議員として党勢拡大に邁進してきました。とりわけ、2005年の第44回衆議院選挙では、民主党群馬県第2区総合選対委員長として、長い間、同じ町内に事務所を構える自民党現職と真っ向から向き合い「石関貴史」を当選（比例復活）させることが出来ました。これは、群馬県で唯一、最初の民主党衆議院議員を誕生させることが出来た快挙であり、まさに、民主党に対する貢献・役割を果たすことが出来たと未だに自負しているところです。

然しながら「石関貴史」は、当選後、意図的に民主党群馬県連の分裂を画策し、今日に至っても再建することなく、衆議院議員の肩書きを悪用して差別、排除及び恣意的行為を繰り返し、その事例は枚挙にいとまがありません。

今般の党員・サポーターの募集についても、一切の文書、連絡もありません。聞けば、本年2月以降、県連役員会議も開催されていないとのこと。組織としての機能不全のまま、一方的に、地方議員登録を抹消するなどとは言語道断、不届き千万です。本件も、当初より地方議員登録を抹消せんがための画策であったと断言できます。「石関貴史」の数々の暴挙こそが、党勢拡大に逆行する反党行為そのものであります。

民主党群馬県連をまとめることが出来ない輩が、国を治めることが出来ましようか。出来ません。もはやこれまで。私の堪忍も限界を超えました。民主主義の欠片も存在しない民主党に、これ以上とどまる必要性も価値もありません。したがって、断腸の思いで離党を決断いたしました。

なお、本文書は、「石関貴史」に提出すべきものであることを承知していますが、全く以て信頼関係のない輩に提出する意思がございません。よって、貴職あて提出いたしますので、ご理解のほどお願いいたします。 以上。